

# 長岡京市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

～持続可能な<sup>アース</sup>未来プラン～

令和3年度進捗報告書



令和5年3月

長岡京市



## はじめに

長岡京市では、平成 21 年 4 月に“<sup>いにしえ</sup>古の都”から“環境の都”を目指して、「長岡京市環境都市宣言」を行いました。宣言では「真に環境都市として誇れるまちづくり」を目指し、市民、企業、諸団体と行政が協働して取組みを進めていくこととしています。

その取組みの一つとして、平成 23 年 3 月に市域全体の温室効果ガスの削減計画となる「長岡京市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）～ 持続可能な未来（アース）プラン ～」を策定しました。計画策定当初、目標として、市内の温室効果ガス排出量を、2030 年度（令和 12 年度）までに、1990 年度（平成 2 年度）比で 40%削減することを掲げました。

その後、平成 27 年 12 月には国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）において、国際的枠組み「パリ協定」が採択され、わが国では、現時点で、2030 年度に 2013 年度比 46%以上の温室効果ガスを削減する目標を掲げるとともに、2050 年には、ゼロカーボン（温室効果ガスの実質排出量ゼロ）を目標に掲げています。

近年では、こうした国の動きに前後する形で、2050 年温室効果ガス排出量実質ゼロを、地方から表明する「2050 年ゼロカーボンシティ」を宣言する自治体が増えてきました。本市においても、令和 4 年度から始動する長岡京市第三期環境基本計画において、2050 年ゼロカーボンを目指すことを明記するとともに、令和 4 年 4 月 1 日付けで「2050 年ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。

この目標の実現のためには、行政だけでなく、事業者、団体、個人など、多様な立場の主体がそれぞれの責任を果たすとともに、連携した取組みも進めていく必要があります。

地球温暖化は、地球規模の課題ではありますが、一人ひとりの考え、各家庭などでの行いの積み重ねが、温暖化につながっていると言えますので、私たち一人ひとり、エネルギーを少しでも無駄にしないこと、引いてはライフスタイルそのものを見直していく必要があります。新型コロナウイルスの感染拡大防止を図る中で、「新しい生活様式」という言葉が生まれましたが、これまでの常識を変えていかなくてはならないという点では、温暖化対策にも当てはまると言えます。

本報告書では、市域から排出された温室効果ガスの排出量と、重点的に進めるとした「8つの取組み」の進捗内容について、報告・評価を行っています。温室効果ガス排出量の算定にあたって、一部本市固有の統計数値がなく、本市の取組み成果が反映されにくい状況ではありますが、取組みの成果が見えにくい中においても、確実に施策を進めていかなくてはなりません。

令和 4 年度以降は、本地球温暖化対策実行計画（区域施策編）は、第三期環境基本計画に包含する形となります。温暖化対策に限定しない分野横断的な取組みを通じて、ゼロカーボン社会の実現に向け施策を進めていきます。

# もくじ

●報告書について .....	1
●長岡京市域の温室効果ガス排出量の現況	
1、令和元年度温室効果ガス総排出量の確定値・令和2年度速報値（排出係数変動） .....	2
2、令和元年度温室効果ガス総排出量の確定値・令和2年度速報値（排出係数固定） .....	3
3、「長岡京市8つの取組み進捗管理表」の結果 .....	4
4、令和3年度「長岡京市8つの取組み」進捗状況まとめ .....	11
●本計画の第三期環境基本計画（R4.4月～）への包含について .....	13
●長岡京市生活環境審議会の評価・意見及び市の考え方 .....	14
●資料 .....	17

# 報告書について

## 進捗管理表の目的

本進捗管理表は、本市行政が温暖化対策として推進、又は支援を行っている施策の進捗状況を把握するためのものです。管理表では、共通指標としてCO<sub>2</sub>排出量、家庭での電気とガスのエネルギー使用量を掲げています。また、8つの取組みそれぞれについても目標指標を掲げ、それに対する実績を毎年評価しています。

## 進捗管理表の期間

現進捗管理表は、長岡京市第二期環境基本計画実施計画の計画期間と合わせ、2019（令和元）年度から2021（令和3）年度までの3年間としています。令和4年度以降は、本地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を、第三期環境基本計画に包含することとしているため、第三期環境基本計画実施計画の実績報告の中で、温暖化対策の施策について評価していくこととなります。

報告年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度以降
温室効果ガスの報告年度の報告年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	第三期環境基本計画実施計画の実績報告の中で、R4以降の取組みを評価していく
8つの取組み目標年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
進捗管理表改訂年度		○		○			○		○			

※上記「温室効果ガスの報告年度」が2年前の年度となっているのは、算定に必要な統計データが公開され、出そろうのに時間を要するためです。

## 進捗管理表の見方・評価の目安

年度ごとに進捗状況の評価し、公表します。評価は、下記のとおりです。

目標指標	H29年度現状値	各年度の目標値（目標とする状態）	進捗内容	進捗評価	実行部門
目標の内容	特記のあるものを除く	・目標値 ・数値で示せない場合は、目指すべき状態	実績や取組み内容を記載	年度終了後に目標に対して◎○△×で評価（評価の目安は下記のとおり）	主管する課等

「-」は、新規事業につき実績なし

### <評価の目安>

	数値目標	定性の目標
◎	目標数値を達成	目標の状態に達している
○	目標数値の7割以上達成	目標の状態に完全には達していないが、おおむね達成していると判断できる
△	目標数値の7割未満の達成	前年度より進捗している
×	目標に達するための取組みをしていない	前年度から取組んでいない

# 長岡京市域の温室効果ガス排出量の現況

## 1、令和元年度温室効果ガス総排出量の確定値・令和2年度速報値（排出係数変動）

※現在把握している最新の温室効果ガス排出量の確定値は令和元年度の数値となっています。

長岡京市の令和元年度の温室効果ガス排出量の確定値は、320 千 t-CO<sub>2</sub> で、基準年度である平成 2 年度と比べると 31.6%減少しました。前年比を内訳で見ると業務部門の下げ幅がやや大きい結果となりました。府の統計数値の按分により算定しているところがほとんどであるため、長岡京市固有の事情は反映されにくいですが、算定に使う電気の排出係数が微増なのに対し、総排出量が減少している点を踏まえると、エネルギー使用量の減少が一因と言えます。（次ページ参照）

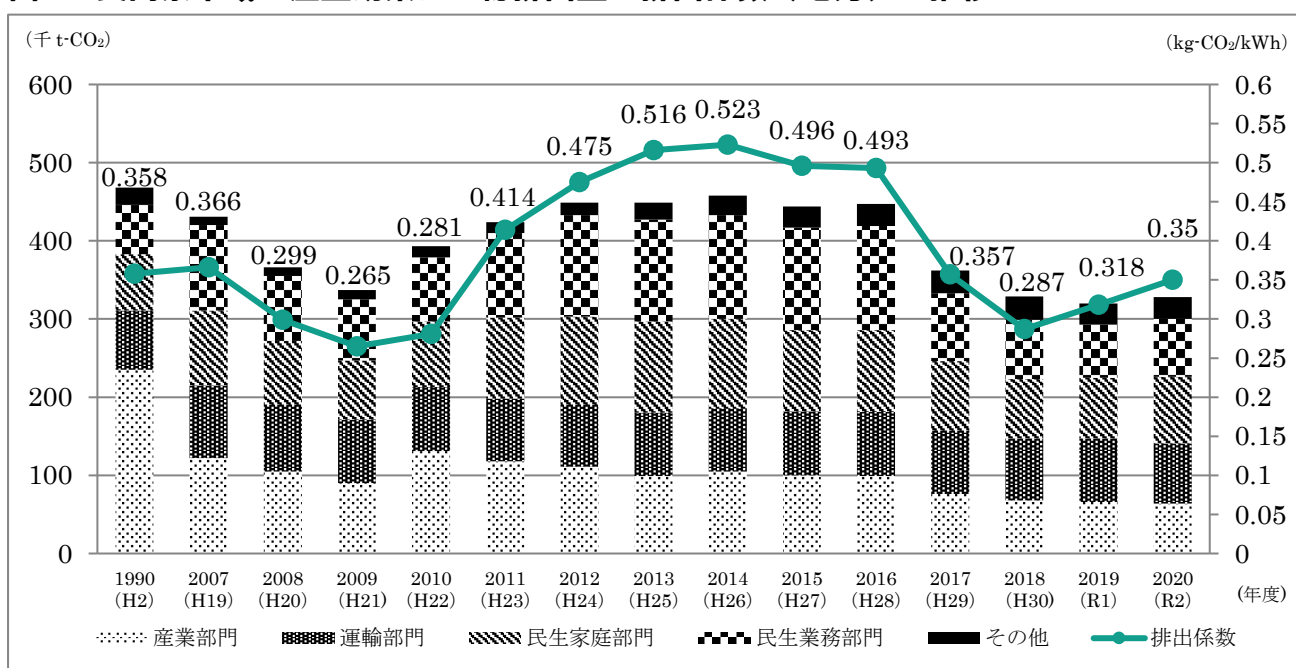
(千 t-CO<sub>2</sub>)

部門/年度	1990 (H2)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)
産業部門	235	122	105	90	131	118	111	99	105	100	99	76	68	66	64
運輸部門	76	93	85	81	82	80	79	81	81	82	82	81	79	81	77
民生家庭部門	72	96	82	76	84	104	113	117	114	104	105	89	76	78	85
民生業務部門	63	109	83	78	82	108	130	130	133	131	133	87	76	68	74
その他	22	11	11	12	14	14	16	22	25	27	28	29	30	27	28
合計	468	431	366	337	393	424	449	449	458	444	447	362	329	320	328
基準年度比(%)	0	-7.9	-21.8	-28.0	-16.0	-9.4	-4.1	-4.1	-2.1	-5.1	-4.5	-22.6	-29.7	-31.6	-29.9

※H29 排出量合計の大幅な減は、使用する統計数値の推計方法が変更されたことが一因としてあります。（次ページも同じ）

速報値

図1 長岡京市域の温室効果ガス総排出量と排出係数（電力）の推移



※排出係数：電気を作る時にどれだけの二酸化炭素を排出したかを測る指標。発電に使用する燃料によって変動します。

なお、平成 28 年 4 月 1 日より電力の全面小売自由化となっていますが、関西電力(株)の係数を用いて算出しています。

## 2、令和元年度温室効果ガス総排出量の確定値・令和2年度速報値（排出係数固定）

電気の排出係数に左右されない取組みの成果を知るため、長岡京市の温室効果ガス排出量にかかる「排出係数」を、平成19年度の数値に固定して算出しています。これにより実質的にエネルギー使用量の変化を知ることができます。平成20年度から平成21年度にかけて産業部門の排出量が減っているのは、リーマンショックによる景気後退の影響が大きいと思われます。平成22年度に経済の復調により増加していますが、平成23年度以降は、東日本大震災の影響と見られ、やや減少しました。前年比を内訳で見ると、産業部門と業務部門の下げ幅がやや大きい結果となりました。按分過程を詳しく見ると、府内電気使用量の減少に加え、従業者府市割合、第3次産業総生産府市割合が下がっていることが減少要因と言えます。速報値ではありますが、令和2年度のさらなる総排出量減少は、新型コロナウイルスが社会に与えた影響によるものと考えられます。

(千t-CO<sub>2</sub>)

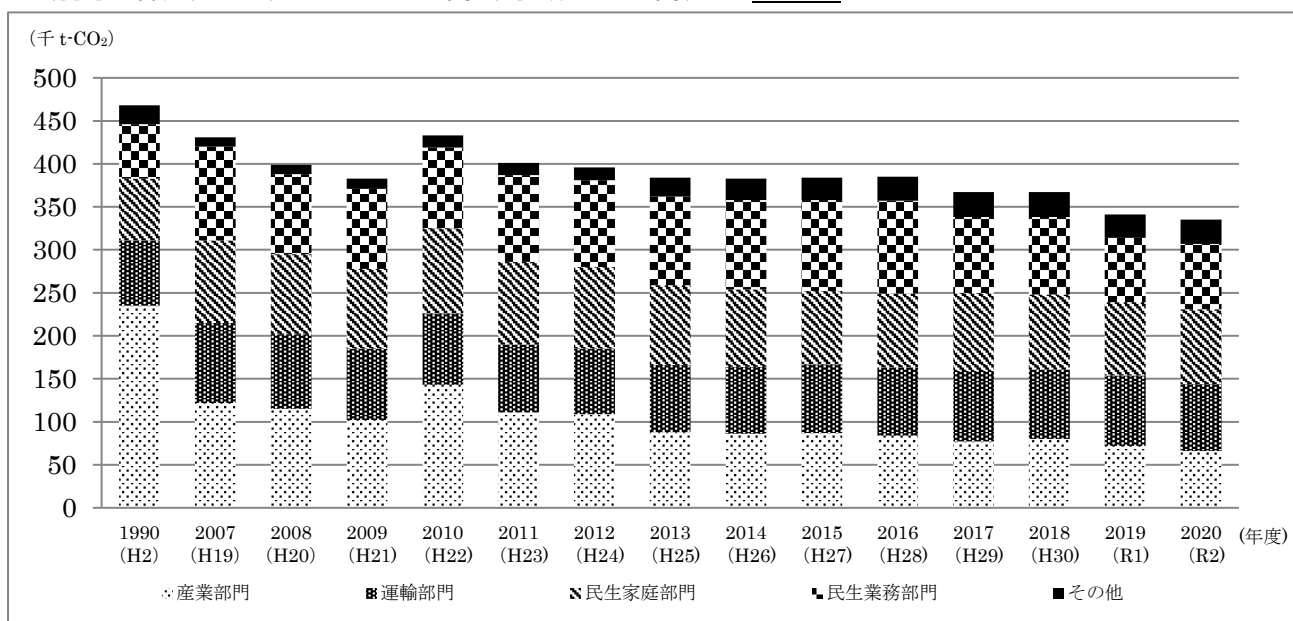
部門/年度	1990 (H2)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)
産業部門	235	122	115	102	143	111	109	88	86	87	84	77	80	72	66
運輸部門	76	93	87	83	83	79	76	78	78	80	79	82	81	82	78
民生家庭部門	72	96	93	93	99	96	95	93	90	85	86	91	87	85	87
民生業務部門	63	109	93	93	94	101	101	103	104	106	108	88	90	75	76
その他	22	11	11	12	14	14	15	22	25	26	28	29	29	27	28
合計	468	431	399	383	433	401	396	384	383	384	385	367	367	341	335
2007年度比(%)	—	0	-7.4	-11.1	+0.5	-7.0	-8.1	-10.9	-11.1	-10.9	-10.7	-14.8	-14.8	-20.9	-22.3
基準年度比(%)	—	-7.9	-14.7	-18.2	-7.5	-14.3	-15.4	-17.9	-18.2	-17.9	-17.7	-21.6	-21.6	-27.1	-28.4

※排出量算定に必要な基礎データがある2007年度（平成19年度）からの推移になります。

速報値

図2 長岡京市域の温室効果ガス総排出量

※排出係数（電力）を2007年度（平成19年度）の0.366に固定



### 3、「長岡京市8つの取組み進捗管理表」の結果

#### 温暖化対策共通指標

目標指標	H27年度 現状値	R1年度 目標	R1年度の 進捗内容	進捗 評価	実行部門
市民1人あたりの CO <sub>2</sub> 排出量（民生家庭部門 CO <sub>2</sub> 排出量/人口）	1,294.5 kg-CO <sub>2</sub>	905.7 kg-CO <sub>2</sub>	961.3 kg-CO <sub>2</sub>	○	環境政策室
市民1人あたりの 電気使用量（電灯使用量/ 人口）	1,844.0kWh	前年度比 使用量減	1,700.8kWh (前年度比4.2%減少)	◎	環境政策室
市民1人あたりの 都市ガス使用量（都市ガス 使用量/人口）	141.8 m <sup>3</sup>	前年度比 使用量減	152.4 m <sup>3</sup> (前年度比1.1%減少)	◎	環境政策室

※温室効果ガス排出量は、算定のための統計数値が出そろうのに時間がかかることから2年遅れの実績となります。  
比較の基準とする年度は、目標を立てる際に基準としたH27年度を採用しています。

図3 市民1人あたりのCO<sub>2</sub>排出量

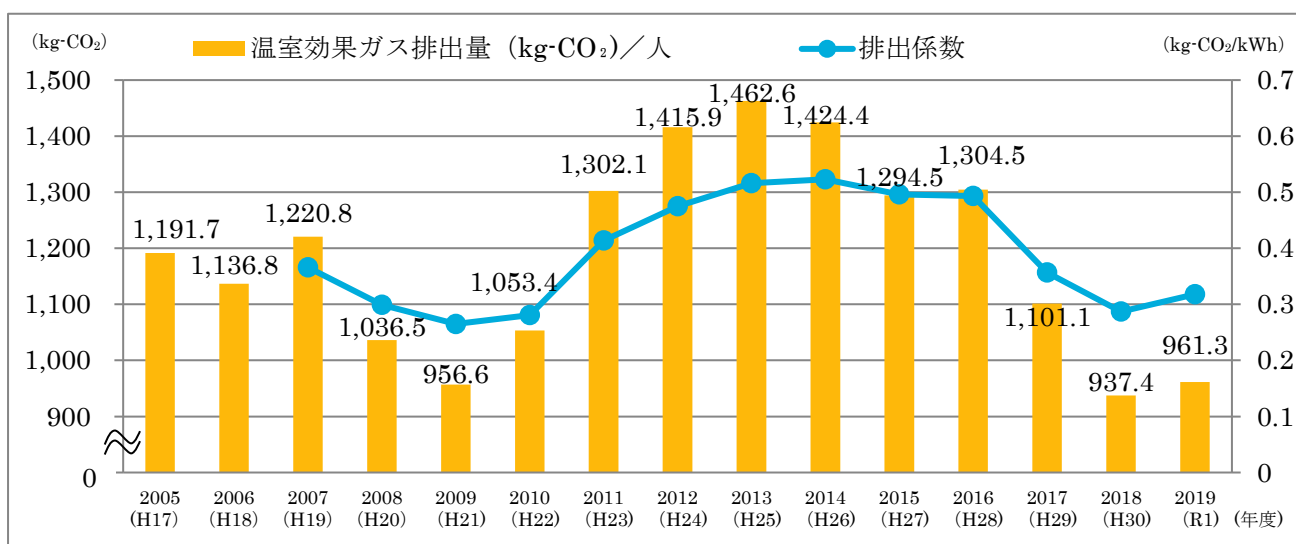


図4 市民1人あたりの電気使用量

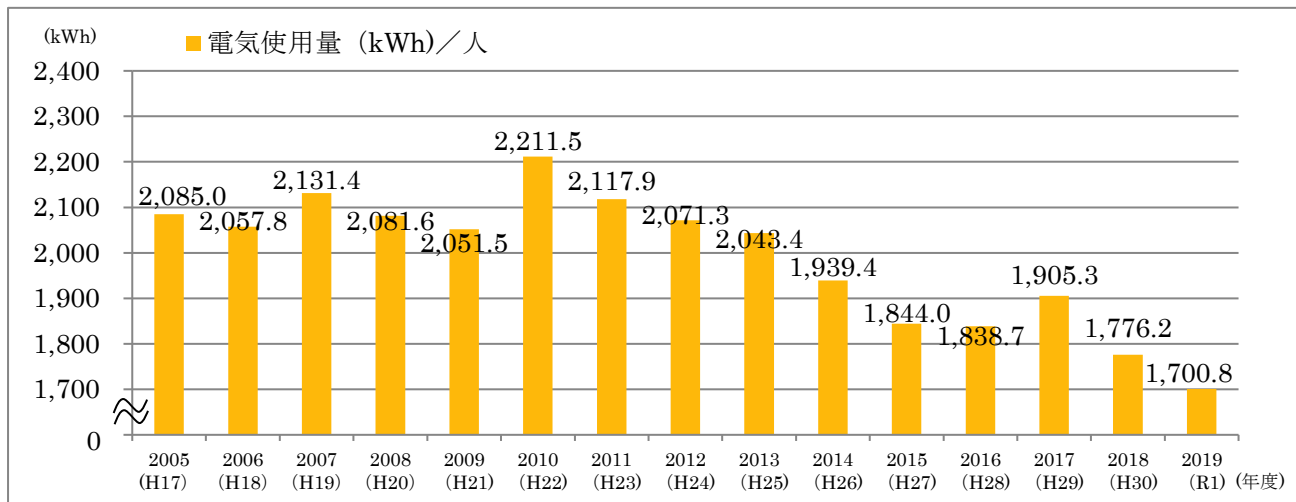
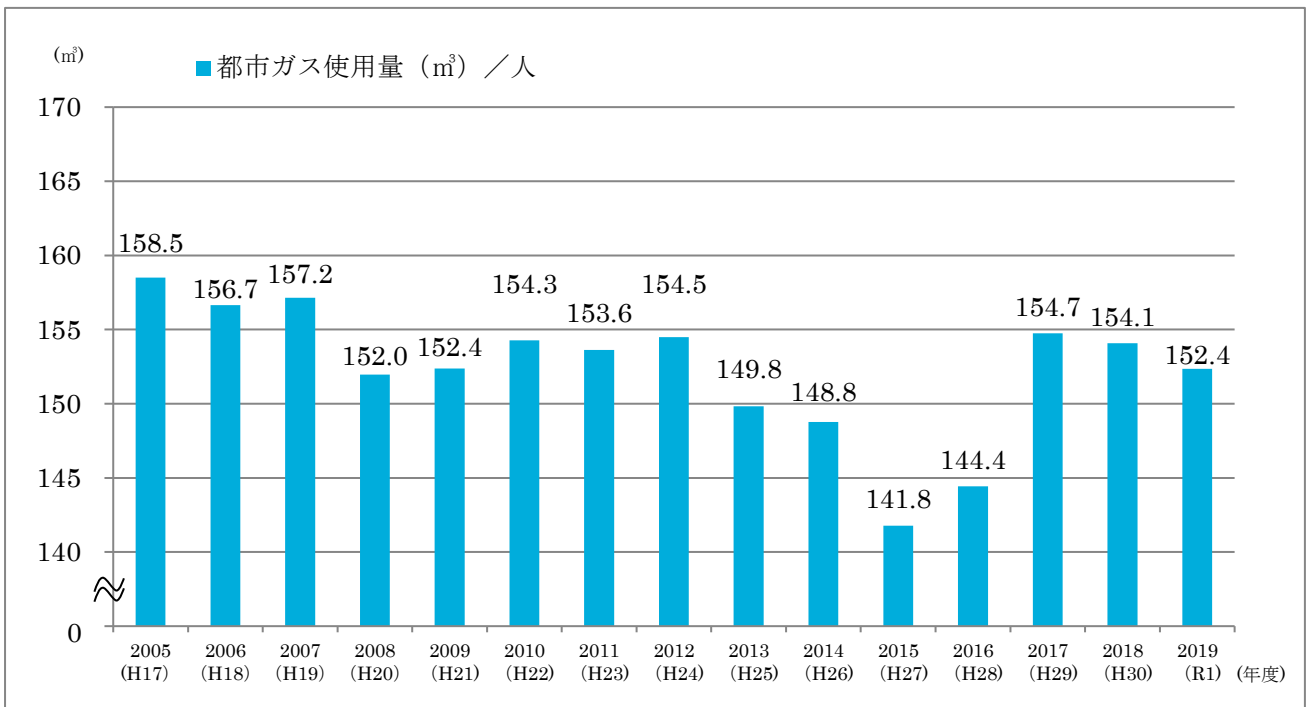




図5 市民1人あたりの都市ガス使用量



取組み1 機器や建築物等の省エネ・省CO<sub>2</sub>化

主要課題	施策の方向性
1. 設備機器や建築物などの基礎エネルギー使用の低減	1. 省エネ住宅等の情報提供 2. 省エネ機器の比較の啓発
2. ビルや家庭でのエネルギー使用量の見える化	1. 見える化機器設置の普及拡大

目標指標	H29年度 現状値	R3年度 目標	R3年度の 進捗内容	進捗 評価	実行部門
住宅エコリフォーム 助成件数	3件	補助制度の見直し	補助制度の見直し (COOL CHOICE 実践補助金へ整理統合)	◎	環境政策室
省エネ機器の情報提供 回数	2回	2回	2回 (催しでの啓発冊子の配布、COOL CHOICE 実践補助金の啓発)	◎	環境政策室
省エネナビ (※1) モニター事業の実施	参加世帯 電気使用量 前年比平均 8.3%削減	事業のあり方の 検討	事業のあり方の検討 (家庭の省エネ秘伝の書のPR、第三期環境基本計画へ事業の趣旨「市民から市民への啓発」の継承)	◎	環境政策室

※1 省エネナビ…家庭の分電盤に取り付けて電気使用量を「見える化」する機器。

## 取組み2 省エネ行動・エコライフの実践

主要課題	施策の方向性
1. 省エネ行動・エコライフの継続	1. 省エネ行動のモチベーション維持・支援 2. 省エネ行動による効果の周知・情報提供
2. 事業所・家庭での省エネ行動手法の獲得	1. 家庭での省エネ手法の普及 2. BMSの導入など環境に配慮された事務の普及

目標指標	H29年度 現状値	R3年度 目標	R3年度の 進捗内容	進捗 評価	実行部門
「うちエコ診断」、「省エネ診断」受診者数	115人	120人	コロナ禍のため中止 (啓発冊子配布等の啓発は実施)	△	環境政策室
環境に配慮した運営の事業所への啓発	スーパーや家電量販店へのクールチョイス啓発 (平成30年度現状値)	啓発	商工会を通じたクールチョイス啓発 事業系ごみ減量のしおり作成	◎	環境政策室 環境業務課
エコドライブ(※2)の啓発	啓発活動2回 市HPでの 情報提供	啓発活動2回 市HPでの 情報提供	啓発活動2回 市HPでの 情報提供	◎	環境政策室
中小企業に向けた省エネ診断等の情報提供	-	省エネ診断、再エネコンサル ジュの情報提供	商工会を通じた省エネ診断、再エネ コンサルジュの情報提供	◎	環境政策室

※2 エコドライブ…環境負荷の軽減に配慮して自動車を使用すること。

図6 事業系ごみ減量のしおり

The figure displays a collection of brochures and informational graphics. Key elements include:
 

- Business Waste Reduction Progress:** A bar chart showing a 70% increase in business waste reduction.
- Waste Sorting Diagram:** A circular diagram showing categories like 'Business Waste' (約70%削減) and 'Household Waste' (約30%削減).
- Business Waste Reduction Rules:** A section titled '事業系ごみ減量のしおり' with a QR code for more information.
- Business Waste Classification Table:** A table with columns for '種類' (Type) and '事業系ごみの別' (Business Waste Category), listing items like paper, plastic, and metal.
- Waste Sorting Section:** A section titled 'クリーンプラザおとくに自己導入' with QR codes for recycling.
- Waste Reduction Tips:** A section titled 'ごみ減量の工夫' with icons for energy saving, recycling, and other tips.

事業系ごみの削減のため、8年ぶりに事業系ごみ減量のしおりを更新し、収集運搬業者を通じて市内の事業所に、ごみ処理のルールや、ごみ削減のポイントなどを啓発しました。

### 取組み 3 循環型社会の推進

主要課題	施策の方向性
1. 資源物のリサイクルの推進	1. 各家庭での分別収集の推進
2. 間伐材資源の循環システムの確立	1. 間伐材の利活用の推進

目標指標	H29年度 現状値	R3年度 目標	R3年度の 進捗内容	進捗 評価	実行部門
リサイクル率（資源化量＋集団回収量）／（ごみの総量＋集団回収量）×100	14.2%	21%	14.8%	○	環境業務課
森林整備面積のうち利用間伐した面積	延べ 11.54ha	延べ 13ha	延べ 12.19ha	○	農林振興課
薪ストーブ購入助成件数	3件	補助制度の見直し	補助制度の見直し（COOL CHOICE 実践補助金へ整理統合）	◎	環境政策室
西山産薪購入助成件数	864束	補助制度の見直し	補助制度の見直し（広葉樹だけでなく、針葉樹も薪材の対象として検討※R4から針葉樹の薪材供給開始及び補助の対象に）	◎	環境政策室

### 取組み 4 低公害車の利用

主要課題	施策の方向性
1. 低公害車の普及	1. 電気自動車や低公害車の率先導入による啓発

目標指標	H29年度 現状値	R3年度 目標	R3年度の 進捗内容	進捗 評価	実行部門
公用車の低公害車導入率（リース含む）	60.0%	次世代自動車（※3）導入に向けた庁内調整	次世代自動車導入に向けた庁内調整（第三期環境基本計画に反映及び市長車をPHVに更新）	◎	公用車保有課
低公害車の情報提供回数	2回	2回	アイドリングストップ啓発のぼりの掲出1回（12/1～12/27） 市ホームページでの情報提供 エコドライブ啓発チラシの配布1回（12/10）	◎	環境政策室

※3 次世代自動車…電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車の3種を想定している。

### 取組み 5 自転車や公共交通機関等の利用

主要課題	施策の方向性
1. 自家用自動車の利用低減	1. コミュニティバスの利便性向上による利用促進 2. パークアンドライドの推進

目標指標	H29年度 現状値	R3年度 目標	R3年度の 進捗内容	進捗 評価	実行部門
はっぴいバス1便あたりの利用者数	13.6人	15人	9.9人	△	交通政策課
パークアンドライド駐車場の利用台数 ※長岡京駅西駐車場・西山天王山駅東駐車場	50,159台 (前年度比7.8%増)	前年度比 利用増	41,727人	◎	交通政策課

## 取組み 6 再生可能エネルギーの導入

主要課題	施策の方向性
1. 再生可能エネルギーの導入推進	1. 太陽光発電システム導入支援 2. 再生可能エネルギーに関する情報の周知

目標指標	H29 年度 現状値	R3 年度 目標	R3 年度の 進捗内容	進捗 評価	実行部門
再生可能エネルギーの 世帯あたりの普及率	3.61%	4.73%	4.88%	◎	環境政策室
公共施設における発電 量の把握及び新築・改築 時の再生可能エネルギ ー導入	-	発電量の把握・再生可 能エネルギーの導入	発電量の把握・水道施設 東配水池に設置した小水 力発電設備の発電開始	◎	施設管理課

表 1 公共施設における太陽光発電システムの設置状況

施設名	設置年度	設置容量	施設名	設置年度	設置容量
バンビオ 1 番館	H17	10kW	長岡第十小学校	H22	4kW
東第二浄水場	H18	40kW	長岡第五小学校	H26	15kW
長法寺小学校	H20	0.912kW	神足小学校	H27	29kW
長岡第七小学校	H22	30kW	西代里山公園	H27	5.46kW
長岡第九小学校	H22	4kW	長岡第六小学校複合施設 (新田保育所部分)	H31	4.32kW

公共施設以外にも、市内私立保育園のおひさま発電所など、民間での太陽光発電設備の導入もされています。また、平成 29 年 9 月に株式会社 DK-Power と「再生可能エネルギー導入事業に関する協定」を締結し、水道施設である北ポンプ場に、小水力発電設備（22kW クラス）を設置しました。さらに、令和 2 年 8 月には、同じく官民連携により、東配水池にも同様の発電設備を設置する協定を締結し、令和 2 年度末には工事が完了し、発電を開始しています。令和 4 年度の実績にはなりますが、現在は、JR 長岡京駅東口駅前の再整備に併せ、(株)村田製作所寄贈の太陽光パネルと蓄電池により、広場の電力を再生可能エネルギーでまかなうプロジェクトを進行中です。（令和 4 年 5 月 19 日協定締結）



図 7 (株)村田製作所との協定締結式



図 8 CO<sub>2</sub>ゼロで行うごみ収集事業協定締結式

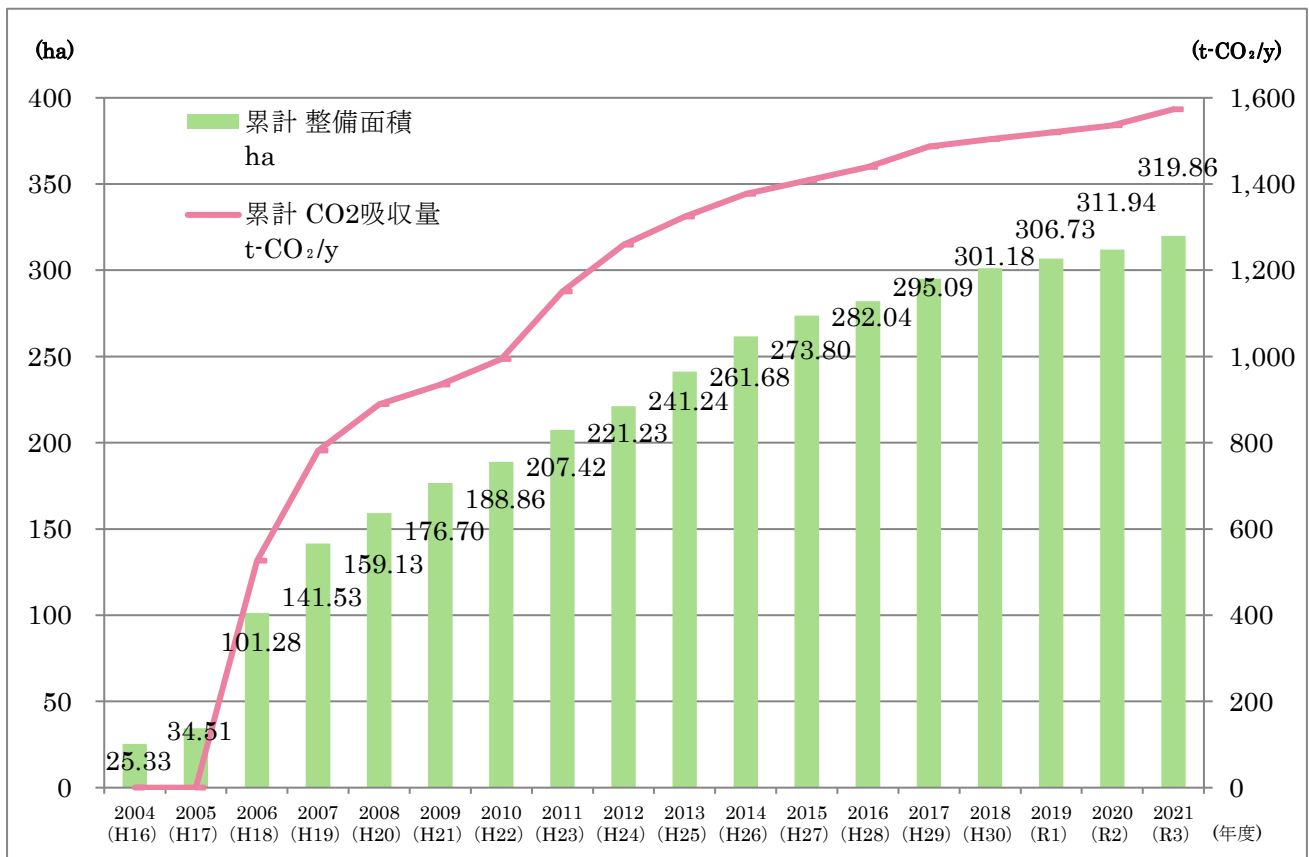
また、市民を巻き込んだ形の再エネ普及施策として、令和 4 年 5 月 16 日、市は、株式会社ボーダレス・ジャパン及び市内ごみ収集事業者 3 社と「CO<sub>2</sub>ゼロで行うごみ収集事業」協定を締結しました。市民が太陽光パネル設置によって生み出した環境価値（CO<sub>2</sub>排出削減効果）を価値化し、市内の燃えるごみ収集事業者が購入することで、理屈上、CO<sub>2</sub>ゼロでのごみ収集を実現しようとする取り組みです。

## 取組み7 緑化の推進や森林、農地の保全

主要課題	施策の方向性
1. 緑化の推進	1. 植樹等による緑地の拡大 2. 緑化・緑の保全活動に対する支援
2. 森林の保全	1. 西山森林整備面積の拡大による健全な森の育成
3. 農地の維持・保全	1. 生産緑地の保全による農地の保全

目標指標	H29年度 現状値	R3年度 目標	R3年度の 進捗内容	進捗 評価	実行部門
まちなかに創出した緑被面積	2,862 m <sup>2</sup> (前年度比+49 m <sup>2</sup> )	50 m <sup>2</sup> 増加	32 m <sup>2</sup> 増加	△	公園緑地課
西山森林整備延べ面積	295.09ha	延べ 320ha	延べ 319.86ha	○	農林振興課
生産緑地面積	60.94ha (前年度比 -0.53ha)	維持 保全	55.76ha (前年度比 -2.17ha)	○	都市計画課

図9 西山森林整備面積とCO<sub>2</sub>吸収量（累積値）



※森林整備によるCO<sub>2</sub>吸収量は、整備した樹木の種類により異なるため、整備面積に比例しません。

## 取組み 8 環境意識の向上

主要課題	施策の方向性
1. 環境問題に対する意識の向上	1. 体験を通じた環境意識の醸成 2. 環境学習の機会の提供 3. 環境活動に関する情報共有の場の提供

目標指標	H29 年度 現状値	R3 年度 目標	R3 年度の 進捗内容	進捗 評価	実行部門
環境体験学習会の開催 件数	西山ファミリー環境 探検隊 3 回実施	西山ファミリー環境 探検隊 4 回実施	西山ファミリー環境探 検隊 2 回実施	△	環境政策室
スターウォッチング・バ ードウォッチングなど の自然観察会の開催	3 回実施 (スターウォッチン グ 2 回・バードウォ ッチング 1 回)	環境イベント・行事 への参画主体数 38 主体	環境イベント・行事への 参画主体数 33 主体	○	環境政策室
環境フェアへの参加団 体・企業数	参加団体 34 団体				環境政策室

### 図 10 西山ファミリー環境探検隊の様子

令和 2 年度は、新型コロナウイルスの影響により、年間を通して一度も実施できなかった西山ファミリー環境探検隊ですが、令和 3 年度は、人数制限を行う、飲食を伴わない、などの条件を付けることで、年 2 回実施することができました。参加人数は大幅に減る結果となりましたが、コロナ禍においても、参加いただいた家族には普段の生活では得られない体験を通して、放置竹林問題のこと、自然のめぐみのことなど、自然環境を守ることの大切さを考えていただく機会となりました。

#### ① 放置竹林の竹をチップ化 (6/26)

#### ② チップ化した竹を敷き詰め、カブトムシの寝床づくり (6/26)

#### ③ 6 月の探検隊が植えたサツマイモの収穫 (11/7)

#### ④ 自然の素材を使ったワッペンづくり (11/7)



## 4、令和3年度「長岡京市8つの取組み」進捗状況まとめ

### ■温暖化対策共通指標について

4 ページ「温暖化対策共通指標」の評価対象年度は、統計数値が出そろった2年前のものとなり、今回の報告では令和元年度分となります。令和元年度の温室効果ガス排出量は前年度よりも減少する結果となりました。要因は2・3 ページに記載のとおり、算定に使う電気の排出係数が微増なのに対し、総排出量が減少している点から、エネルギー使用量の減少が一因と言えます。とはいえ、あくまでも府の統計数値の按分により算定しているところがほとんどであるため、長岡京市固有の事情を反映したものとは必ずしも言えない点については注意が必要です。温暖化対策の取組みの成果が見えづらい状況ではありますが、脱炭素社会への道のりがまだ遠い状況にあることは間違いなく言えるでしょう。第三期環境基本計画をもとに、一層の取組み強化が必要です。

### ■8つの取組みの目標達成状況（令和3年度）

	◎ 達成	○ 7割以上達成	△ 7割未満の達成	× 未達成	計
共通指標	2	1	0	0	3
取組み1	3	0	0	0	3
取組み2	3	0	1	0	4
取組み3	2	2	0	0	4
取組み4	2	0	0	0	2
取組み5	1	0	1	0	2
取組み6	2	0	0	0	2
取組み7	0	2	1	0	3
取組み8	0	1	1	0	2
計	15	6	4	0	25

※達成状況が7割未満で△となった項目及び特筆すべき項目について、下記のとおり詳述します。

#### 【取組み1】

これまで薪ストーブの設置補助、住宅窓の断熱改修補助、太陽光発電設備と蓄電設備の同時設置補助と、別々の補助メニューで、提出書類等の統一がなされていなかったものを、一つの制度に整理・統合し、COOL CHOICE 実践補助金と称した新たな補助制度を開始しました。これまでの補助対象は、補助メニューという形にし、そこに次世代自動車の購入補助を加え、市民がライフスタイルにあった環境の取り組みを行うときに、それを後押しするような制度としました。令和3年度の利用実績は、薪ストーブ1件、住宅窓5件、太陽光と蓄電池15件、次世代自動車2件となっています。令和4年度からは、家庭用燃料電池システムを補助メニューに加えています。

#### 【取組み 2】

「うちエコ診断・省エネ診断受診者数」については、前年度に続き、令和 3 年度もコロナ禍につき中止し、△評価となりますが、各種イベントで「家庭の省エネ秘伝の書」を配布するなどし、地道・着実な省エネ啓発活動を行いました。イベントの形にこだわらず、今後も広く省エネ啓発を行っていきます。

#### 【取組み 3】

四つの取組み項目全てについて、◎(達成)もしくは、○(7割以上の達成)となりました。

#### 【取組み 4】

二つの取組み項目いずれも、◎(達成)となりました。

#### 【取組み 5】

「はっぴいバス 1 便あたりの利用者数」については、コロナ禍前の水準を比べると依然低迷しており、△評価となりましたが、前年度よりはやや回復が見られました。京都済生会病院の移転に伴う令和 4 年度からのルート変更に向け、地域公共交通会議で承認を得るなどの調整を令和 3 年度に行っています。今後ますます利便性の高いコミュニティバスを目指します。

#### 【取組み 6】

二つの取組み項目いずれも、◎(達成)となりました。

#### 【取組み 7】

「まちなかに創出した緑被面積」については、50 m<sup>2</sup>の目標に対し 32 m<sup>2</sup>の実績となり、△評価となりましたが、小規模ながら五つの公園が供用を開始しており、植樹帯（緑被）についても増えています。開発に伴う公園及び植樹帯（緑被）の新設は他律的な部分がありますが、現在は、西山公園の拡張整備の計画を進めており、令和 8 年度の供用開始を目指しています。

#### 【取組み 8】

「環境体験学習会の開催件数」については、西山ファミリー環境探検隊年 4 回の目標に対し、年 2 回の実績となり、△評価となりましたが、コロナ禍においても実施できるやり方で開催し、西山のこと、自然環境保全のことを啓発しました。実施の様子は 10 ページのとおりです。

#### 【その他】

令和 3 年度も前年度に続き、コロナ禍の影響を受ける 1 年となりましたが、前年度の課題を踏まえ、コロナ禍における事業実施を考える 1 年となりました。環境フェアについても令和 3 年度は前年度に続きコミュニティラジオ（FM おとくに）を活用しました。コロナ禍のような状況においても環境保全啓発の使命を果たせるよう、今後も必要に応じ工夫を行っていきます。



## 本計画の第三期環境基本計画（R4.4月～）への包含について

平成23年3月に市域全体の温室効果ガスの削減計画となる「長岡京市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定し、これまで長岡京市環境基本計画の個別具体計画として、環境基本計画とは整合を図りながらも、別計画として進捗管理を行ってきました。

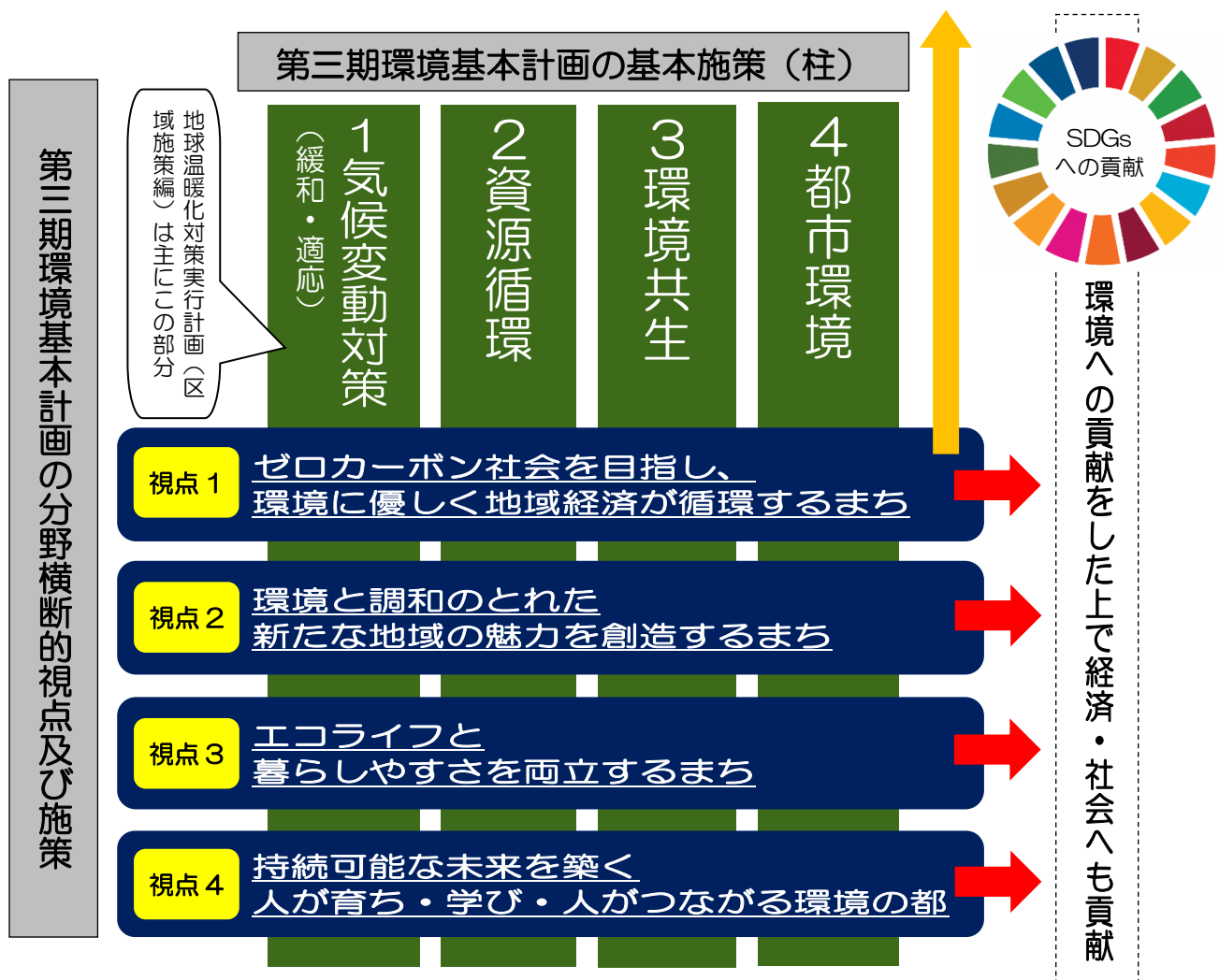
一方、世界に目を向けると、2015年9月の国連サミットにおいて、「持続可能な開発目標」SDGs（Sustainable Development Goals）が採択されました。SDGsには17のゴールが掲げられていますが、その重要なところは、「環境」「経済」「社会」と多分野にわたるゴールの統合的な向上を目指すことにあり、言い換えれば、個々の分野の向上を目指しつつも、他の分野が犠牲になってはいけないという、分野横断的視点の重要性をうたっているものです。

本市は、令和4年4月1日付けで「2050年ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。その施策の実行にあたっては、ゼロカーボンの視点はもちろんですが、他の環境分野、また、経済や社会へも貢献する横断的な視点で取り組みを進める必要があります。

そうしたことから、令和4年4月から始動する長岡京市第三期環境基本計画では、本地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を包含することとしました。今後は、「環境への貢献をした上で経済・社会へも貢献。」そのような分野横断的な視点でゼロカーボン、すなわち温暖化対策の施策を一体的に進めていきます。



2050年ゼロカーボンシティ宣言の様子



## 長岡京市生活環境審議会の評価・意見及び市の考え方

長岡京市では、本計画を策定及び進捗管理を行う際に、意見を求めるため「長岡京市生活環境審議会」を設置しています。この審議会には、有識者をはじめ市民や事業者、諸団体と行政の委員が参加し、PDCA サイクル（計画し、実行し、チェックし、改善する仕組み）を運用しています。本計画の取組み主体は行政ですが、それを行政自身で評価するのではなく、多様な主体が加わって評価します。

これにより行政以外の視点でチェックをし、取組みを改善していくことができます。この章では、審議会委員からの評価と意見をまとめるとともに、市の考え方について報告します。

### ① 7 ページ：はっぴいバスと未来の交通のあり方

委員意見
バス停のルートというのは、変更してよくなる部分もあれば、新たな課題があったりと難しい面もあると思う。今すぐ何をということではないが、施策を進めるにあたっては、マイナスな部分をただ補完するイメージではなくて、新たな交通の未来が開けるような明るいイメージがあってもよいと思う。バス自体が無人になったり、呼んだら家の前に来たりなど、今後の車社会、交通社会の変革があればきちんと対応しながら、使いやすく、意味のあるものに成長させて行くイメージである。
市の考え方
これで完成だと現状に甘んじることなく、新しいテクノロジーの活用も含めて、常に見直しの姿勢を持ち、前向きな明るい未来に向けて取り組むスタンスが重要と考える。

### ② 9 ページ：まちなかに創出した緑被面積について

委員意見
今街中では、多くの開発が行われているが、そのような中であっても、一定の緑地を確保や、増やしていく取組みの中で、他律的な側面のある現状の指標だけで評価していくには課題を感じる。平米だけを見て評価する以外にも評価の仕方はないか。
市の考え方
現状の評価指標の数字は、あくまでも市が把握している部分だけの数字であり、実際には緑化活動には、緑のサポーターはじめ、市民協働による部分もある。そういった部分を客観的に評価するための数字の集計等は難しい面があるが、取組み自体は今後も広げ、継続していく方向であり、評価指標を補足する形で可能な限り紹介していきたい。

### ③ 環境教育について

委員意見
将来を見据え、環境教育という観点でこれから施策を起こしていただけたらと思う。例えば小学生においては、授業の一コマを環境にあてるとか、小学何年生は必ず西山に行くなどである。

特に、長岡京市らしさを出しながら、次世代を担う子ども達が、環境を近くに感じられる場があればよいと考える。それがゼロカーボンシティ宣言をされた長岡京市のアイデンティティになり、魅力になればと考える。

#### 市の考え方

紹介になるが、令和4年度から KES 学校版ということで、環境マネジメントシステムを学校に取り入れ、KES の認証を取得することとした。KES 学校版の認証は京都市に続き全国で2例目である。環境マネジメントシステムを児童・生徒とともに運用を図ることで、環境教育としての意義もある。また、長岡京市らしい取り組みでは、遠足の時に西山に行く取り組みを行っている。そのほか、小学4年生には、環境に関する絵画を描いてもらうなど、教育現場において環境教育を実践いただいている。とはいえ、絶えず見直しの姿勢を持つことは重要と考えるので、今後も環境教育の果たす役割を意識しながら、各種の取り組みを進め、情報発信していく。

### ④ 報告書全般について

#### 委員意見

よく整理されており、丁寧な進捗の管理に心から敬意を表したい。他市町のモデルになるものとする。今後に向けては、環境だけでなく、福祉や教育など、様々な横串を通して暮らしを良くしていこうという第三期環境基本計画に掲げた理念を実践に移して行ってほしい。施策の実行にあたっては、市単独の事業だけに捉われず、うまく国の動きとも連携し、また、教育的な面を含め、担い手の育成についても強化を図る議論を始めてほしい。

#### 市の考え方

現状に甘んじることなく、丁寧な進捗管理を継続するとともに、第三期環境基本計画に掲げたSDGs の分野横断的視点を持って、取り組み自体についても加速化させていきたい。国や府も有効な施策を数多く行っているため、住民と接する窓口である市町村が積極的に啓発するとともに、次代の担い手を育成する取り組みについても進めていきたい。

### ⑤ 第三期環境基本計画のポイントである分野横断的視点を持って、地域をも越えた貢献を

#### 委員意見

これからは環境のことだけを意識して取り組みを進めるだけでは、社会全体がよくなっていかないということが、ようやく認識され始めてきた。SDGs という福祉や人権も含めた視点が今後は必要。そういった視点は、地域差を見る上でも重要である。長岡京市の環境の取り組みはとても進んでいるが、恵まれている点もある。市民活動が盛んで、環境意識の高い大企業もある。一方北部地域は過疎高齢化が進み、山は荒れ、場所によっては海岸漂着ごみで悩まされている実態がある。第三期環境基本計画のポイントとした「環境への貢献をした上で経済・社会へも貢献」という視点は、地域を越えて貢献することの重要性も示唆している。もはや長岡京市のことだけを考えていてよい状況ではないと考える。例えば、森林整備においても、私達の水をいただいている桂川上流の市町村と連携することも考えられる。その材を薪として生かす展望も持てる。京都府を縦断する京都縦貫自動車道を使って、北部と「環境バス」のようなものでつなぎ、環境をテーマに交流することも考えられる。そのような長岡京市が一歩進んだSDGs の市になることを期待

する。

#### 市の考え方

環境問題、ひいてはSDGsの目標を達成することは、市町村個々の努力では解決できない問題である。第三期環境基本計画のポイントとした「環境への貢献をした上で経済・社会へも貢献」の実践の仕方は、ご指摘のとおり様々な形が考えられる。第三期環境基本計画を計画で終わらせることなく、その実行の中で、長岡京市らしくSDGsが推進でき、ゼロカーボンを達成できるような方策を模索していきたい。

## 資料 温室効果ガス排出量の算出のために使用している主な数値

温室効果ガス排出量の算定にあたっては、下記のような主要な数値を市独自の統計、または府や国の統計から、把握し算定のために利用しています。

本市では、さまざまな統計値から排出量を算定していますが、エネルギーの小売全面自由化により、市域における正確なエネルギー使用量の把握が困難となっています。そのため、取組みによる成果が見えにくくなっているという課題があります。

部門	統計値
共通に利用する値	都道府県別エネルギー消費量
	電気、ガスなど各種エネルギーの排出係数
	灯油、重油など各種燃料の発熱量・排出係数
産業部門で使用する値	農林水産業の市町村内総生産
	建設業の市町村内総生産
	製造出荷額
	製造業種別ごとの従業者数
運輸部門で使用する値	燃料消費量
	乗用車・貨物車・乗合・軽自動車保有台数
	燃料別保有台数
	鉄道の電力消費量
	LPG 消費量
民生業務部門で使用する値	第3次産業市町村内総生産
民生家庭部門で使用する値	長岡京市人口
	長岡京市世帯数
	LPG 購入量
	灯油購入量
その他部門で使用する値	F ガス社会ストック量